カンボジアにおける農業基本統計の改訂について

はしがき

カンボジアでは，1960年より昨年（1964年）末までの5カ年間にわたって，資金総額80億リエル（うち国家財政資金55億リエル，外国援助25億リエル）をもって，当国の経済社会開発の促進をめざす，いわゆる第1次5カ年計画が実施されてきた。この5カ年計画では，さきに実施された経済社会開発2カ年計画（1956年より57年末まで。ただし実施は半年延長され，58年6月末に終了した）での生産部門に対する実績がはなはだ不十分であったのにかんがみ，その不足を補う意味からも，とくに生産部門の開発に対する投資に重点がおかれ，総投資額の40%に当たる32億リエルがこれにあてられている（第1表）。

第1表　カンボジア第1次5カ年計画の投資配分

（単位：100万リエル）

投資部門	配分額	百分比(%)
生産部門	3,200	40
下部構造	2,240	28
社会施設	1,960	24.5
行政部門	600	7.5
合計	8,000	100

（出所）Ministère du Plan, *Annuaire Statistique Retrospectif du Cambodge (1958-1960)*, p. 165 より作成。

カンボジアでの主要産業たる農業関係への投資は当然この生産部門への投資中に含まれており，その額は少なくとも10億リエルを越える（若干の項目について投資額の詳細不明の点あり）のであるが，これによってカンボジア政府としては当国の農業生産の増強とその多角化を推進して国内需要を充足し，さらに農産物輸出による外貨獲得によって，国家経済の発展を意図したのである。あたかも本年はこうした第1次5カ年計画の最終年度に当たっており，来年からは，第2次5カ年計画の発足が予定されている。そのため目下，各省の関係部門においては，その準備作業に忙殺されている最中である。

こうした作業に関連して，おりしも最近（1964年9月初旬）農業省においては，1949年以来昨年まで15カ年にわたる期間の各種農産物の生産高，耕作面積などに関する新統計数値を発表した。この新統計は農業省の農業統計部（Division de la Statistique agricole）がFAOの専門家の協力を得て作成したものであり，その目的としては，従来発表されてきた統計数値には，しばしば性急かつ時には主観的にすぎる推定に基づく誤謬が多く含まれているとして，その是正を図ろうとしたものである。

新しい統計は山林局（I. R. E. F.）の監督の下に，1958年11月に撮影された4万分の1の航空写真を中心資料とし，これに最近に至って知られたその他の諸要素（輸出高や人口増加率など）を加味し，それらの基礎の上に作成された。

この新農業統計は，第1次5カ年計画の成果を正しく評価する資料として，したがってまた，前述したように来年よりその発足を予定されている新5カ年計画立案の上で，農業部門に関する基本資料とされることがすでに決定されているのである。

以下本稿では，現在のカンボジア農業の実態を知る基本資料ともいうべきこの新農業統計について，その内容を詳細に紹介し，あわせて手許にある従来発表の統計数値との比較から，両者間の差異について，あるいはまた第1次5カ年計画における農業生産部門の成果について若干の検討をも加えてみることにしたい。

なお，この新統計はカンボジア政府発行の *Agence Khmère de Presse*（通称 *AKP*）の1964年9月3日付（No. 4917）および4日付（No. 4918）に "Rapartition des terres suivant leurs utilisations dans le Royaume" と題して掲載されたことを補足しておく。

I　土地利用

1.　カンボジアにおける土地利用の概観

これまでのところ，カンボジアには土地利用に関する詳細な調査が行なわれておらず，この国の耕作地面積を確実に把握することはきわめて困難なことであった。したがって従来この面に関して発表されていた数字にも各資料間で差異がある。たとえば，同じカンボジア側の資料でも，1954年11月バンコクで開催されたアジア地域土地問題講習会に提出された資料によれば，全国土面積が

1750万ヘクタール，このうち森林面積が900万ヘクタールで全国土の51%を占め，農用地が670万ヘクタールで38%（うち耕作地面積は211万5000ヘクタールで12.1%）を占めていることになっているのに対して，一昨年(1963年)末の農業省の資料（*Bulletin de la Statistique et des Etudes agricoles*, 1ere Année, No. 3, p. 50）によれば，国土総面積は1810万3500ヘクタールとなっており，うち森林面積と可耕地面積はそれぞれ905万1700ヘクタール（全土の49.90%）と669万8300ヘクタール（37.00%）となっているのである。後者のうち1963年度の耕作面積は205万0800ヘクタール（全土の11.3%）とされている。さらにFAOの資料（*Production Yearbook 1960*）などでは国土面積は1725万ヘクタールとなっており，うち耕作地面積については250万ヘクタール（国土面積の約14%）と推定されているのである。

ところが，今回発表された新統計によれば，この問題に関する数値は第2表のごとく示されており，国土総面積が1811万1559ヘクタールとわずかながらも先の農業省資料と相違のあるのをはじめ，耕作地面積が293万8131ヘクタールへと大幅に増加されているなど，すべての項目についてこれまでの数値とは相当の差が見られる。

第2表　カンボジアにおける土地利用

（単位：ヘクタール）

	面　積	百分比(%)
森林地帯	13,372,486	73.83
耕作地面積	2,938,131	16.22
非耕作地面積	1,800,942	9.95
合　計	18,111,559	100.00

（出所）*AKP*, No. 4917 より作成。

今後は，この新数値がすべての問題を検討する際の基礎資料となることは，すでに述べたとおりである。

2. 森林面積

森林はカンボジアにおける天然資源の最も大なるものであるが，新統計ではこの森林面積として1337万2486ヘクタールという数値が与えられていることはすでに見た。ところでごく最近までカンボジアの森林面積は（さきに見たように90万ヘクタールとしている資料も若干あるが），山林局によって80万ヘクタールと推定され発表されてきたのであるが，今回の調査によりそれが約40.2%の過少評価であったことが判明したわけである。いまこれら新旧両資料を並記してみると第3表のごとくであり，これによれば両資料の差，つまり今回大幅に改訂されたのは保存林の面積についてよりもむしろ主として保護林の面積についての評価であったことがわかる。

第3表　カンボジアの森林面積

（単位：ヘクタール）

	面積 新統計	面積 旧統計
保存林面積	3,954,048	3,783,738
保護林面積	9,418,438	4,216,262
合　計	13,372,486	8,000,000

（出所）新統計は *AKP*, No. 4917, p. 8.
旧統計は Direction des Eaux et Forêts 発表(1963？)の *La Forêt Cambodgien dans l'Economie du Pays*, pp. 1～2.

なおここに保存林というのは，森林面積のうち永久に森林として残される部分であり，一方保護林とは現在木の繁茂している土地であるが，人口が多くなった際は農業生産のために利用されるべく，国家によって保護されている地域を指している。カンボジアでは森林はすべて国有であるが，その森林行政をみると，現在もなおフランス式森林行政を継承しており，そこでは森林の生産面についてよりも，むしろその保護の面に力点をおいた政策が採られているのが大きな特徴であろう。したがって林業開発はこの国にとって今後の大きな課題である。

3. 耕作地面積

第4表は耕作地，非耕作地面積に関して新たに発表された統計の詳細である。いまこの第4表によれば，航空写真から計算された米作可耕面積は249万2736ヘクタールとなっており，したがって同時期（1958年）のものとして従来発表されていた153万ヘクタールという数字は約38.6%の過少評価であったことがわかる。

なお，この153万ヘクタールという数字は村落当局者(Autorités-Khum)の報告を基礎として出された数字であり，それはいわゆる課税可能水田(rizières imposables)面積であった。したがって，1958年当時カンボジア全体で地租を免かれた米作地が約80万ヘクタールないし90万ヘクタール存在したことになろう。

一方，灌漑施設の不備から，一毛作を基本形態とするカンボジアでの米作可耕面積（約249万3000ヘクタール）中には，(1)雨期のみに耕作される米作地，(2)乾期のみに耕作される米作地，(3)道路，土手，日陰地，藪林などおよび米作可耕地のうちの非耕作部分から成る非米作地，の3者が含まれているわけであるが，問題の1958年に実

第4表　カンボジアの耕作地面積の内訳(1958年)

(単位：ヘクタール)

区分		面積
耕作地	米作可耕地	2,492,736
	その他の1年生作物栽培地	230,187
	果樹栽培地	1,034
	ゴム栽培地	39,478
	その他の多年生作物栽培地	58,458
	焼畑耕作地	116,238
	合計	2,938,131
非耕作地	耕作放棄地	46,092
	草原	580,428
	藪林	329,736
	沼沢地	292,913
	石地	9,356
	湖	255,982
	その他湿潤地帯	195,137
	都市，村落	87,335
	塩田	3,963
	合計	1,800,942

(出所)　*AKP*, No. 4917, p. 8 より作成。

際に耕作された米作地面積としては，上記3者の合計249万3000ヘクタールより(2)(3)の合計（全体の16%に達すると推定されている。そのうち(2)が2.5%，約6万ヘクタールを占める）を除いた面積，すなわち大約209万8000ヘクタールであったとするのが最も確実であると考えられる。かくして，新統計ではこの数値(209万8000ヘクタール）が基準値（すなわち1958/59年度の米作面積）として採用されたのであった（後掲第9表参照)。

なお今回の発表には同年の全国耕地の利用状況が概数で示されているが，これによると同年の米作地面積としては，先の数値に(2)乾期田の面積約6万ヘクタールを加えた数値に等しい215万8000ヘクタール（全耕地の70.8%）が採られているようである(第5表)。また米作以外の耕作地面積についていえば，その他の1年生作物栽培面積が約23万ヘクタール（全耕地の7.5%)，果樹栽培地および多年生作物栽培地の合計が約6万ヘクタール（全耕地の2%)，ゴム栽培地が約4万ヘクタール（全耕地の1.3%)，焼畑耕作地が11万6000ヘクタール（全耕地の3.8%)と推定され，耕作放棄地面積が44万6000ヘクタール（全耕地の14.6%）となっている。以上を合計すれば305万ヘクタールに達する。

第5表　カンボジアにおける全耕地の利用状況概数(1958年)

(単位：ヘクタール)

区分	面積	百分比(%)
米作地	2,158,000	70.8
その他の1年生作物栽培地	230,000	7.5
果樹栽培地および多年生作物栽培地	60,000	2.0
ゴム栽培地	40,000	1.3
焼畑耕作地	116,000	3.8
耕作放棄地	446,000	14.6
合計	3,050,000	100.0

(出所)　*AKP*, No. 4917, p. 10 より作成。

II　農家戸数と経営規模

第1次5カ年計画では，カンボジアの1964年における総人口は約550万人と推定されていた。一方，1962年に行なわれた人口調査では同年のカンボジアの人口は574万人であり，年間人口増加率を2.7%とみなせば，1964年におけるカンボジアの総人口は605万4000人ということになる。したがって，第1次5カ年計画における推定は約10%の過少評価であったことが判明する。

また，これから逆算すれば，1958年のカンボジアの人口は528万7000人であり，農業人口を総人口の76%と推定すれば，当時のカンボジアの農業人口は401万8000人であったものと考えられる。つぎに，農家1戸当たりの人口を5.1人と推定すると，当時のカンボジアの農家数は78万8000戸であったことになろう（同様の基準に基づいて計算すると，1964年のカンボジアの農業人口は約460万1000人，農家数は約90万2000戸と推定される)。

さらにここで，農家1戸当たりの経営規模を検討してみると，カンボジアにおける1958年の全耕地面積は前述のごとく305万ヘクタールである。これを全農家数78万8000戸で除すと，結局農家1戸当たりの平均経営耕地面積として3.870ヘクタールという数値が出てくる。

従来から，カンボジアにおいては農家による小規模経営が一般的であることがいわれてきたが，今次の発表には3.87ヘクタールという平均経営面積を掲げるのみで，こうした農家間の規模別構成の点についてはなんら触れられていない。そこで参考のために手許の一，二の資料によりこの点を少し補ってみたいと思う。

まず農業省資料を見ると，この点について，1961/62年度に行なったサンプル調査の結果に基づいたものとして，第6表のごとく示されている。これによると所有面積5ヘクタール以下の農家が圧倒的に多いことがわかる（全農家数の85.6%を占める）が，同資料によると農家当たりの平均所有面積は2.93ヘクタール，平均耕作面積は2.45ヘクタールとされている。

第6表　農家数の規模別構成

農家当たりの所有面積	農家数 戸数	比率(%)	耕地面積 面積(ヘクタール)	比率(%)
1ヘクタール以下	256,260	30.70	126,800	5.18
1 ～ 2	186,410	22.30	260,280	10.65
2 ～ 5	272,500	32.60	926,600	37.90
5 ～ 10	86,930	10.40	608,510	24.82
10 ～ 20	28,420	3.40	386,510	15.80
20ヘクタール以上	5,020	0.60	138,050	5.65
合計	835,900	100.00	2,446,650	100.00

(出所)　Direction de l'Agriculture, *Bulletin de la Statistique et des Etudes agricoles*, 1ère Année, No. 3, Octobre-Novembre-Decembre 1963, p. 50 より作成。

一方，こうした農家の経営の経営規模についても，地方によってそれぞれの特色があることは当然であろう。第7表にみるように，カンボジアの中心的な米作地帯である Battambang 州や Svay-Rieng 州，Prey-Veng 州などにおいては，大規模経営を行なっている農家も比較的多く見られ，他方メコン河流域の肥沃な商品作物栽培地帯に位置する Kompong-Cham 州などでは，経営面積こそ小さいが（米作農家では96.8%，他の作物栽培農家では99.8%までが5ヘクタール以下）集約的な農業経営によって，相当の収益をあげているといったぐあいである。なおカンボジアでは農家の経営形態としては家族耕作による自作農が大部分であり，完全な小作農はほとんど存在しないといわれている。この国では現在まで土地改革は行なわれていない。

第7表　州別にみた農家数の規模別構成比率（%）

区分	5ヘクタール以下	5～10ヘクタール	10～50ヘクタール	50ヘクタール以上
米作農家				
Battambang	76.3	18.3	5.3	0.1
Kandal	99.0	0.9	0.1	0.02
Kompong-Cham	96.8	2.8	0.4	—
Prey-Veng	87.0	10.5	2.4	0.1
Svay-Rieng	80.3	16.5	3.0	0.2
米以外の作物栽培農家				
Kandal	99.2	0.7	0.1	—
Kompong-Cham	99.8	0.2	0.01	—

(出所)　David J. Steinberg, *Cambodia*, New Haven, 1959, p. 298 より作成。
原資料は *Bulletin Economique de l'Indochine*, avril-juin 1952.

第8表　農家平均経営面積の内訳

(単位：ヘクタール)

種類	面積	百分比(%)
米作地	2.736	70.70
1年生作物栽培地	0.293	7.54
多年生作物栽培地	0.126	3.27
焼畑耕作地	0.147	3.80
非耕作地	0.568	14.69
合計	3.870	100.00

(出所)　*AKP*, No. 4917, p. 10.

さて今次の発表には，上記3.87ヘクタールという農家1戸当たり平均経営面積をモデルとして，その利用目的別にみた内訳を発表している。この第8表にはさきの表（第5表）に見えていたゴム栽培地が含まれていないが，ゴムは現在のカンボジアの場合，特殊の外国（フランス）資本ないしは外国資本とカンボジア資本の合弁によるプランテーション経営がほとんどであるので，一般農家を対象としているこの場合には除外されたものと考えられる。

III　米作に関する新統計

カンボジアの農産物のうち最も中心的なものは何といっても米であるが，この米作に関する統計として第9表に掲げた数値は今回初めて発表された新数値である。これが今後，1949/50年度から1963/64年度に至る15年間のカンボジアの米作に関する基本統計として用いられるべきものであることはいうまでもない。

そこでいま，これを従来発表されていた数値（第10表）と比較してみると，耕作面積，生産量，ヘクタール当たり収量，輸出量ともに両資料間で一致する数値はほとんど存在せず，耕作面積については最低51万ヘクタールから最高83万7000ヘクタール，生産量については最低22万トンから最高93万3000トンと，いずれも従来の発表数値が過少評価であったことが判明する。ヘクタール当たり収量についていえば，1957/58年度までが1年を除き過大，以後の年が過少評価であった。

なお，この米作新統計表（第9表）については，大略以下のような説明が付されているので紹介しておく。

(1)　1949年以来のカンボジアにおける政治情勢

この15年間は大約二つの時期に区分できる。その第1は1949年から54年に至る政情不安の時期で，この政情不安のために農業面での事業もその発展がはなはだ困難で

第 9 表　カンボジアの米作に関する新統計（1949/50～1963/64年度）

		1949/50	1950/51	1951/52	1952/53	1953/54	1954/55	1955/56	1956/57	1957/58	1958/59	1959/60	1960/61	1961/62	1962/63	1963/64
生産	耕作面積(1000ヘクタール)	1,657	1,682	1,697	1,629	1,693	1,743	1,837	1,937	2,030	2,098	2,150	2,182	2,206	2,250	2,296
	ヘクタール当たり収量(トン)	0.930	0.960	0.966	0.975	1.000	0.830	0.950	1.000	1.020	0.965	1.056	1.060	0.890	1.128	1.165
	籾生産量：															
	雨期作(1000トン)	1,541	1,615	1,639	1,588	1,693	1,447	1,745	1,937	2,070	2,025	2,270	2,313	1,963	2,538	2,675
	乾期作(1000トン)	35	36	38	39	40	41	44	49	53	58	65	70	76	84	85
	生産量合計(1000トン)	1,576	1,651	1,677	1,627	1,733	1,488	1,789	1,986	2,123	2,083	2,335	2,383	2,039	2,622	2,760
	指数(1949/59の平均を100)	88.8	93.1	94.5	91.7	97.7	83.9	100.9	112.0	119.7	117.4	131.6	134.4	115.0	147.8	155.6
消費	人口(1000人)	4,117	4,231	4,348	4,469	4,611	4,739	4,870	5,005	5,144	5,287	5,434	5,585	5,740	5,895	6,054
	食用消費(1000トン)	939	965	991	1,019	1,051	1,066	1,110	1,141	1,173	1,205	1,241	1,273	1,309	1,344	1,380
	輸出量(籾計算1000トン)	187	268	213	138	234	157	109	360	396	377	609	444	279	697	* 775
	種子用(1000トン)	133	135	136	130	135	139	147	155	162	168	172	174	176	180	183
	工業用消費(推定1000トン)	53	51	61	62	61	59	59	61	60	61	63	66	58	59	60
	家畜飼料用(推定1000トン)	46	47	48	49	51	45	53	54	56	57	58	60	61	62	63
	収穫時および貯蔵時の損耗(1000トン)	158	165	168	163	173	149	180	199	212	208	233	238	203	262	276
	消費量合計(1000トン)	1,516	1,631	1,617	1,561	1,705	1,615	1,658	1,970	2,059	2,076	2,376	2,255	2,086	2,604	2,737
	貯蔵量(1000トン)	+60	+20	+60	+66	+28	−127	+131	+16	+64	+ 7	−41	+128	−47	+18	+23

（注）＊輸出目標額（米計算で約550,000トン）。
（出所）*AKP*, No. 4918, p. 14 より作成。

第 10 表　カンボジアの米作に関する旧統計

		1949/50	1950/51	1951/52	1952/53	1953/54	1954/55	1955/56	1956/57	1957/58	1958/59	1959/60	1960/61	1961/62	1962/63
生産	耕作面積(1000ヘクタール)	1,029	1,085	1,180	1,112	1,175	1,121	1,000	1,234	1,227	1,522	1,612	1,423	1,561	1,740
	籾生産量(1000トン)	1,219	1,304	1,440	1,407	1,463	775	1,150	1,478	1,382	1,153	1,419	1,544	1,250	1,689
	ヘクタール当たり収量(トン)	1.185	1.202	1.220	1.265	1.245	0.691	1.150	1.198	1.126	0.758	0.880	1.085	0.801	0.971
輸出	暦年	1950	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963
	籾輸出量(1000トン)	132	65	45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	米輸出量(1000トン)	46	113	169	141	293	101	70	231	254	242	391	285	182	

（出所）Ministère du Plan, *Annuaire Statistique du Cambodge 1962*, pp. 35, 36, 116 より作成。原資料は農業局 (Direction de l'Agriculture) 資料。

あった。これに対して，1955年から64年に至る期間は国内にふたたび平和が訪れ，現在もまさしくそうであるようにサンクム (Sangkum：人民社会主義共同体）の農業政策によって刺激された耕作者たちは，まったく安全にかれらの土地に戻り，またまったく自由にその生産を遂行することができたのである。

(2) 耕作面積

耕作面積の拡大状況も，カンボジア国内の政情の推移とその軌を一にしている。米作地面積も1949年から54年までの政情不安の時代には大した拡大がなかった。当該時期の平均年間拡大面積は1万4000ヘクタールにすぎなかったのである。これに対して，1955年以来64年に至る9年間の平均年間拡大面積は5万1000ヘクタールに達したのであった。

(3) 収　量

技術の改良，農事普及化の促進およびサンクムによる治水灌漑政策の実施によって，ヘクタール当たり収量は著しく増大するに至った。すなわち，1955/56年度のヘクタール当たり収量は0.950トンであったのが，1963/64年度には1.165トンとなり，この8年間で22.63%の増収を示している。これに対して1949～55年間のヘクタール当たり収量は0.830トンから1.000トンであった。

(4) 自然条件による豊凶

問題の15年間に，カンボジアで3回凶作の年があった。

すなわち以下のごとくである。

まず第1回は1954/55年度であった。この年は旱ばつのひどい年で，カンボジアは国内食糧需要量をもみたすことが不可能となった。しかし前年度までの貯蔵米によって部分的に国内需要量を充足することができた。

2度目の旱ばつは1958/59年度で，この時はそれほどひどいものではなかったが，やはり収穫量に若干の減少が見られた。

最後に，1961/62年度中に起こったメコン河の大洪水のために生産量は大約20%減少したのであった。

(5) 年間生産量

各年度（カンボジアの米穀年度は5月より翌年4月末まで）の籾生産量は雨期，乾期の2回の作付分から全体的に集計されるが，その数値は毎年実施される試験的調査によって得られた各作付分の収量から計算される。

なお年間生産量について，今回訂正された数値と第1次5カ年計画に示されたそれとの相違を見ると，大約以下のとおりである。すなわちまず1952/53年度についてみると，5カ年計画で確定された生産量としては140万7000トンであったのに対して，改訂された生産量では162万7000トンとなっており，前者が22万トンの過少評価であった。同様に1957/58年度分についても5カ年計画の138万2000トンに対して新統計では212万3000トンとなっており，前者が74万1000トンの過少評価であった。そして最後に5カ年計画の最終年次たる1963/64年度分についてみると，計画の目標生産量は180万トンとなっているが，新統計には同年度生産量として276万トンという数値が掲げられている（したがって，他の諸要素を除きこの数値のみに関するかぎりでは，すでに生産量は計画の目標額を96万トン上回り，153.3%の実績をあげていることになろう）。

(6) 生産指数

最も正確を期するために，1949/50年度から1958/59年度に至るまでの10年間の籾生産量の平均値を100とすると，籾生産量指数は1952/53年度の91.7から1957/58年度には119.7へと上昇し，さらに1959/60年度には131.6へ，1963/64年度には155.9となったことがわかる。

(7) 人　口

人口についての数値は1962年に行なわれた人口調査の結果を基準とし，これに年間人口増加率を2.7%として計算して得られた数値である。

(8) 食用消費

1人1日当たり食糧消費量は1949/50年度以来一律に米400グラムと定められており，これは籾624グラムに相当する。また年間消費量に直すと1人当たり籾228キログラムとなる。ただ，旱ばつによって著しい収穫量の減少をみた1954/55年度についてのみは例外的に1人当たり年間消費量を籾225キログラムと想定した。

(9) 輸出量

輸出量の数値は籾表示として与えられている。すなわち各年間に輸出された米，砕米および粉の全体数量に基づき，その合計数値を1.56倍して得られたものである。

(10) 種　子

種子の量はヘクタール当たり80キログラムを基準としこれに年度ごとの耕作面積を考慮して算定された。

(11) 工業用および家畜飼料用消費

第9表に掲げられている数値は予備的な推定値にすぎず，これまで当問題についてはなんらの研究がなされていない。工業用消費量は各年間のアルコール製造量に基づいて計算された。

(12) 収穫時および貯蔵時の損耗

これらの損耗は非常に重要なものであり，年間生産総量の約10%にものぼっている。機械化が推進されている諸地域では，この損耗量は15%近くにも達している。

(13) 貯蔵量の推移

1949年以来の15年間に，カンボジア国内での籾の総貯蔵量は大約40万トン（年当たり2万6600トン）に達しているはずである。これらのうちある部分は各年の食用消費に使用され，また収穫時および貯蔵時の損耗によって失われ，さらには工業用および家畜飼料として消費されるであろう。

以上が第9表に付された説明の大要であるが，今回の発表内容はこれまでにカンボジアで発表されたいかなる米作統計に比しても最も総合的であり詳細である。人口増加率など種々の推定基準もほぼこの国の実情に近いものと首肯しうる。しかも何よりも数値算定の基礎を航空写真のごとき最も信頼するに足る科学的データの上においている点で，今回の新統計はカンボジア農業に関する資料整備の上からはやはり一エポックを画したものといえるであろう。

なお，フランス植民地時代以後のこの国における米作統計をはじめとする農業統計の歴史を紹介した好文献として，Jean Huet, "Documentation et Statistiques Agricoles au Cambodge", *Annales de la Faculté de Droit et des Sciences Economiques de Phnom-Penh*, Vol. III, 1961, pp. 151～200 をあげておく。

第 11 表　カンボジアの主要農産物

品種	1949/50	1950/51	1951/52	1952/53	1953/54
禾　菽　類：合　計	1,645.2	1,730.0	1,771.3	1,723.9	1,829.0
籾	1,576.0	1,651.0	1,676.0	1,627.0	1,733.0
赤トウモロコシ	53.0	62.0	75.0	77.0	77.0
白トウモロコシ	16.2	17.0	19.3	19.9	19.0
塊　茎　類：合　計	26.0	27.9	29.5	30.6	30.2
菽　豆　類：合　計	19.0	16.0	15.0	15.0	18.0
緑豆	19.0	16.0	15.0	15.0	18.0
繊　維　類：合　計	4.6	5.1	4.9	4.7	5.2
綿花（実綿）	0.2	0.3	0.3	0.3	0.4
ジュート（繊維）	0.7	0.8	0.8	0.9	1.0
カポック（繊維）	3.7	4.0	3.8	3.5	3.8
桑	…	…	…	…	…
油脂作物：合　計	15.7	15.7	16.5	15.9	17.8
ヒマ種	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3
落花生	5.0	4.5	6.0	5.0	6.0
ゴマ	1.2	1.4	1.7	2.5	3.0
大豆	7.5	7.5	6.0	5.5	6.0
コプラ	1.8	2.1	2.5	2.6	2.5
糖　科　類：合　計	272.0	258.0	263.0	279.0	290.0
ヤシ砂糖（凝固）	32.0	33.0	33.0	34.0	35.0
甘蔗糖	240.0	225.0	230.0	245.0	255.0
果　樹　類：合　計	178.0	183.0	185.0	186.0	187.0
蔬　菜　類：合　計	225.4	234.7	242.8	251.2	260.8
香　辛　類：合　計	6.3	6.6	6.7	7.1	6.8
コショウ	1.4	1.3	1.2	1.1	1.3
樹液採取類：合　計	15.5	18.4	22.5	24.4	27.8
ゴム	15.5	18.4	22.5	24.4	27.8
合　計	2,407.7	2,495.4	2,557.2	2,537.8	2,672.6

（出所）　*AKP*, No. 4918, pp. 15, 16より作成。

第 12 表　カンボジアにおける主要農産物の生産高指数（1949～59の平均値＝100）

	1949/50	1950/51	1951/52	1952/53	1953/54	1954/55	1955/56	1956/57	1957/58	1958/59	1959/60	1960/61	1961/62	1962/63	1963/64
禾菽類	87.7	92.2	94.4	91.9	97.5	88.6	100.9	112.3	120.2	117.7	132.8	136.3	116.8	149.5	158.0
塊茎類	89.6	96.2	101.7	105.5	104.1	94.8	91.0	97.2	106.2	115.5	125.1	140.6	136.2	147.5	151.7
菽豆類	120.2	101.2	94.9	94.9	113.9	101.2	88.6	88.6	101.2	94.9	107.5	113.9	113.9	120.2	126.5
繊維類	86.7	96.2	92.4	88.6	98.1	101.8	101.8	103.7	107.5	124.5	150.9	273.5	711.3	267.9	301.8
油脂作物	81.3	81.3	85.4	82.3	92.2	81.8	99.4	115.0	144.5	136.7	152.8	163.7	166.3	187.5	198.9
糖科類	100.2	95.1	96.9	102.8	106.9	91.4	99.5	101.3	105.0	100.2	117.2	129.0	141.2	153.3	165.1
果樹類	93.6	96.3	97.3	97.8	98.4	98.4	100.0	102.6	107.3	107.8	115.7	122.1	123.1	132.1	136.3
蔬菜類	84.5	88.0	91.1	94.2	97.8	99.9	104.6	109.6	114.1	115.8	125.0	130.0	132.0	141.2	149.2
香辛類	96.9	101.5	103.0	109.2	104.6	95.3	98.4	98.4	98.4	96.9	101.5	107.6	112.3	121.5	129.2
樹液採取類	56.1	66.6	81.5	88.4	100.7	116.3	111.2	121.7	123.5	133.3	143.8	149.2	149.2	147.1	161.2
年度別総合指数	88.9	92.1	94.4	93.7	98.7	88.3	101.0	110.0	117.1	115.2	129.3	134.4	123.2	148.1	149.2

（出所）　*AKP*, No. 4918, p. 16.

生産量に関する新統計　（単位：1000トン）

1954/55	1955/56	1956/57	1957/58	1958/59	1959/60	1960/61	1961/62	1962/63	1963/64
1,588.0	1,893.4	2,107.3	2,255.7	2,209.1	2,491.5	2,557.3	2,190.8	2,805.2	2,963.9
1,488.0	1,789.0	1,986.0	2,123.0	2,083.0	2,325.0	2,383.0	2,039.0	2,620.0	2,760.0
79.0	84.0	97.0	107.0	98.0	127.0	143.0	125.0	150.0	170.0
21.0	20.4	24.3	25.7	28.1	29.5	31.3	26.8	33.2	33.9
27.5	26.4	28.2	30.8	33.5	36.3	40.8	39.5	42.8	44.8
16.0	14.0	14.0	16.0	15.0	17.0	18.0	18.0	19.0	20.0
16.0	14.0	14.0	16.0	15.0	17.0	18.0	18.0	19.0	20.0
5.4	5.4	5.5	5.7	6.6	8.0	14.5	37.7	14.2	16.0
0.3	0.4	0.4	0.5	0.4	0.5	5.8	27.5	2.7	3.5
0.9	1.0	1.1	1.2	1.0	1.3	1.5	1.7	2.0	2.3
4.2	4.0	4.0	4.0	5.2	6.2	7.2	8.5	9.5	10.2
…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
15.8	19.2	22.2	27.9	26.4	29.5	31.6	32.1	36.2	38.4
0.4	0.6	0.8	1.5	2.0	3.5	3.2	3.4	3.2	3.0
5.0	5.5	5.0	5.2	5.5	5.8	5.8	6.2	6.7	7.0
2.5	3.2	4.5	6.6	4.5	5.2	7.0	8.7	10.5	12.3
5.5	7.5	9.3	11.7	11.0	11.3	11.5	9.5	11.2	11.3
2.4	2.4	2.6	2.9	3.4	3.7	4.1	4.3	4.6	4.8
248.0	270.0	275.0	285.0	272.0	318.0	350.0	383.0	416.0	448.0
28.0	25.0	25.0	25.0	27.0	28.0	30.0	33.0	36.0	40.0
220.0	245.0	250.0	260.0	245.0	290.0	320.0	350.0	380.0	408.0
187.0	190.0	195.0	204.0	205.0	220.0	232.0	234.0	251.0	259.0
266.4	279.0	292.3	304.1	308.7	333.2	346.5	351.9	376.5	397.7
6.2	6.4	6.4	6.4	6.3	6.6	7.0	7.3	7.9	8.4
1.2	1.2	1.4	1.4	1.5	1.5	1.5	1.3	1.4	1.5
32.1	30.7	33.6	34.1	36.8	39.7	41.2	41.2	40.6	44.5
32.1	30.7	33.6	34.1	36.8	39.7	41.2	41.2	40.6	44.5
2,392.4	2,734.5	2,979.5	3,169.7	3,119.4	3,499.8	3,638.9	3,335.5	4,009.4	4,040.7

第 13 表　カンボジアの主要農産物生産量に関する旧統計　（単位：トン）

	1949/50	1950/51	1951/52	1952/53	1953/54	1954/55	1955/56	1956/57	1957/58	1958/59	1959/60	1960/61	1961/62	1962/63
籾	1,219,000	1,304,000	1,440,000	1,407,000	1,463,000	775,000	1,150,000	1,478,000	1,382,000	1,153,000	1,419,000	1,544,000	1,250,000	1,689,000
赤トウモロコシ	47,000	35,000	90,000	100,000	110,000	110,000	120,000	100,000	90,000	63,950	110,500	107,750	120,000	150,000
緑豆	24,000	25,000	15,000	15,000	15,000	20,000	24,000	30,000	25,000	9,448	9,400	7,760	19,270	20,660
綿花(実綿)	200	200	300	400	400	400	300	200	200	625	600	2,971	29,600	3,600
カポック(繊維)	2,500	3,700	3,000	3,500	3,500	3,500	3,000	2,500	3,000	3,600	5,000	4,743	7,000	6,453
ヒマ種子	220	210	250	300	300	…	…	…	…	…	38	949	3,754	4,664
落花生	4,500	5,000	4,500	6,000	5,000	4,000	3,500	2,500	3,000	2,370	2,500	2,117	10,763	12,451
ゴマ	600	1,000	1,200	1,500	1,300	2,000	2,000	2,000	3,000	501	900	1,579	7,868	11,767
大豆	6,000	7,500	5,000	4,500	6,000	8,000	12,000	18,000	20,000	4,956	4,600	2,520	9,175	9,626
ヤシ砂糖	25,000	32,000	32,000	32,000	33,500	40,000	33,000	35,000	…	27,300	27,400	56,405	56,600	47,373
コショウ	1,000	1,500	1,000	1,100	1,200	850	700	1,000	1,400	1,393	2,000	2,174	1,222	1,398
ゴム 暦年	1950	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963
ゴム 生産量	14,815	15,419	18,411	22,474	24,353	27,766	32,056	30,683	33,555	34,128	36,779	39,629	41,183	40,697

（出所）Ministère du Plan, *Annuaire Statistique du Cambodge 1962*, pp. 35, 37, 38および Banque Nationale du Cambodge, *Bulletin Mensuel*, Août 1964, p. 61 より作成。

IV　主要農産物に関する生産統計

今次の発表ではまた，カンボジアの主要農産物に関する生産統計として第11表と第12表が与えられている。前者は個々の栽培品種別にみた生産量統計であり，後者はその指数表示である。なおここには先にみた米作統計の場合のような各品種別の耕作面積や，したがってまた一定面積当たりの収量，あるいは輸出量といった数値は全然掲げられていない。

そこでいま，新たに示された農産物生産量について，これを従来発表されていた数値との比較を容易にするために，旧生産量統計（1962/63年度分まで）を掲げると第13表のごとくである。これら新旧両資料を比較してみると，両者間の数値には相当の差異があり，両者間に一致する数値を見いだすことはきわめてまれであるといわなければならない。

いまいくつかの実例を検討してみよう。まず粟についてはすでに見たところであるので，その粟についでカンボジアの重要農産物たる赤トウモロコシの場合を見ると両資料間の値が一致するのは1962/63年度分のみで，他の年度の場合，従来の数値が1951/52年度分から1956/57年度分までが，3000トンないし36万トンの過大評価であり，その他の年度が最低6000トンから最高約3万5000トンまでの過小評価であったことが知られる。なおカンボジアでは乾季作の赤トウモロコシに対して雨季作の白トウモロコシがあるが，これは新統計にも明らかなように生産量も少なく，住民の生食用にあてられている。一方生産量も多くほとんど全量が輸出用にあてられる赤トウモロコシは，主としてメコン河流域の河川沿岸地域で栽培されている。

つぎにゴムの生産量の場合についてみると，これは新旧両資料間で統計数値の基準が異なっている（新統計が米穀年度，旧統計が暦年単位）ので，比較は困難である。ゴムはいうまでもなく，カンボジアの農産物のうちでは最も大資本（主としてフランス資本）により，かつ最も近代的な経営によって栽培されていて，新旧両資料によっても，その生産量が着実に伸びていることがうかがわれる。

つぎにコショウの生産量の場合はどうであろうか。このコショウも赤トウモロコシと同様この国の重要な輸出農産物であり，ゴムとともに主として外国資本（この場合は主に華僑資本）によって Kampot 州を中心に栽培されている。いまその生産量について前記新旧両統計をみると，1952/53，1957/58，1962/63の3年度分については両資料の数値が一致しており，他は1950/51，1959/60，1960/61の3年度分が従来200トンから700トンの過大評価であり，その他の年度分は100トンないし500トン過小評価されていたことが知られる。

つぎにカポックの場合は1950/51，1952/53の両年度分の数値が新旧両資料間で一致しており，他の年度分は旧統計ではすべて過少評価されていた。カポックはカンボジアでは全国的に広く栽培されているが，とくに河川沿岸地域および紅土地帯に多い。

つぎに緑豆の場合についてみると，新旧両統計で数値の一致しているのは1951/52およびその翌年度の2年分の生産量についてのみで，他は全部相違している。そのうち1953/54，1958/59から1960/61年度までの4年度分については3000トンないし1万0200トン旧統計の過少評価であり，その他の年度分は逆に最低1300トンから最高1万6000トンまでに及ぶ過大評価であった。なお緑豆はカンボジアでは河川沿岸地帯や紅土地帯の畑作地で広く栽培されているが，メコン河流域において，トウモロコシと輪作の形で生産される量が最も多い。

ヤシ砂糖の生産量については，両資料間で数値の一致するのは1953/54年度分のみで，1957/58年度分については旧統計では不明であったのが新統計では2万5000トンと確定された。他の年度についてみると，旧統計は1949/50年度から1953/54年度までおよび1959/60年度の合計6年度分が600ないし7000トンの過少評価，1954/55年度から1956/57年度までおよび1958/59年度さらに1960/61年度から1962/63年度までの合計7年度分が300トンから2万5600トンに及ぶ過大評価であったことが判明する。なおヤシ砂糖はパルミラ・ヤシ（扇ヤシ）の汁液から採取されるのであるが，カンボジアではこのパルミラ・ヤシはほとんど全国いたるところに生育しているが，とくに採液が多く行なわれているのは Kompong Speu, Kampot, Kandal, Pursat, Siemreap などの諸州である。糖液は11月から5月の間，すなわち乾期に採取される。このヤシ糖を製精する工場としては現在家内工業的なものが30カ所あまりあるほか，850トンの能力をもつ工場が一つプノンペンにあるが，さらにチェコスロバキヤの援助によって1万6000トンの能力をもつ精製工場の建設が予定されている。

さて，つぎにゴマの生産量について検討しよう。ゴマの場合は新旧両資料間に一致する数値がなく，1962/63年度分が旧統計の過大評価であったのを除き，他の年度分

はすべて従来過少評価であったことが知られる。ゴマは主としてメコン河流域に栽培され，黒ゴマ，白ゴマ，茶ゴマなどの種類がある。

つぎに大豆の生産量について。新旧両資料間で1950/51および1953/54の2年度分の数値が一致しており，1949/50，1951/52，1952/53および1958/59以降1962/63年度までの各年分が旧統計の過少評価，それ以外の年度分が過大評価であったことが判明する。カンボジアではこの大豆は先述の緑豆とほぼ同様の条件によって栽培されているが，輸出量が必ずしも安定せず，市況に左右されて作付面積が一定していない。

さらに最後に落花生の生産量について一言しておくと上記新旧両資料間で一致する数値を示している年度は一つもなく，1949/50および1951/52から1960/61までの期間はすべて旧統計の過少評価，一方1950/51，1961/62，1962/63の3カ年については過大評価であったことが知られる。落花生は河川沿岸地方の砂地，Kampot 州の海岸沿いの砂地，Kompong-Cham 州の紅土地帯などを主産地としている。

V　第1次5カ年計画における農業生産面での成果

以上の検討から，これに関連してわれわれの注目したいのは，前掲の旧統計を基礎として第1次5カ年計画での農産物生産目標額が定められたということであり，しかも本年がその最終年度に当たるという事実である。そこでいま，計画目標額を新統計の値に並記してみよう（第14表）。これによると両者間の数値の差異はいっそう明らかである。たとえば，第1次5カ年計画での農産物目標生産額算定の基礎となった1958年度についてみれば，籾の74万1000トンを初め，赤トウモロコシの1万1000トン，落花生の2200トン，ヒマ種の1200トン，綿花の300トンと，従来の生産額数値はすべてかなりの過少評価であったことが判明する。

にもかかわらず，新統計によって1963/64年度の各種農産物の生産量を見れば，その過少評価に基づいて作成された計画最終年度（1964）生産目標額に達している品種はわずかに籾と甘蔗糖とヒマ種の3品種にすぎないのである。籾は276万トンで目標額180万トンを96万トン上回る153.3%の実績をあげ，甘蔗糖は40万8000トンで目標額6万トンの6.8倍，ヒマ種は3000トンで目標額500トンの6倍の生産量をあげた。なおここでゴムの植付面積について一言しておくと，500ヘクタール以上の大プランテーションのゴム植付面積の合計は，1964年7月現在で4万6450ヘクタールで計画目標面積5万ヘクタールに達していないが，その他中小の国営・個人プランテーションを加えた全カンボジアにおけるゴム植村面積は，1963年10月現在で5万5332ヘクタールに達しているとの報告があり，(Ho Tong Peng, "Notes sur l'hévéaculture au Cambodge," *Bulletin de la Statistique et des Etudes agricoles*, 1ère Année, No. 3, Octobre-Novembre-Decembre 1963, p. 27)，これによるとゴムの植付面積はすでに昨年，5カ年計画の目標を達成していたことになる。したがって，

第14表　第1次5カ年計画における農産物生産目標額と実績

品種	単位	1953年 計画書数値	1953年 新統計数値	1958年 計画書数値	1958年 新統計数値	1964年 計画目標額	1964年 実績（新統計）
籾	トン	1,407,000	1,627,000	1,382,000	2,123,000	1,800,000	2,760,000
赤トウモロコシ	トン	100,000	77,000	96,000	107,000	200,000	170,000
綿花	トン	400	300	200	500	6,000	3,500
ジュート	トン	—	900	—	1,200	5,000	2,300
甘蔗糖	トン	—	245,000	—	260,000	60,000	408,000
ヤシ砂糖	トン	—	340,000	—	25,000	65,000	40,000
ヒマ種	トン	300	300	300	1,500	500	3,000
コーヒー	トン	—	不明	—	不明	500	不明
落花生	トン	6,000	5,000	3,000	5,200	8,000	7,000
ゴム（植付面積）	ヘクタール	30,643	30,643(1)	33,395	34,012(1)	50,000	46,450(1) 55,332(2)

（注）(1)は500ヘクタール以上のプランテーションの合計。1964年度分は7月現在の数値を示す。
(2)は中小プランテーションを含む全カンボジアの1963年10月現在の植付面積。

（出所）Royaume du Cambodge, *Premier Plan Quinquennal ≪Préah Norodom Sihanouk≫*; *AKP*, No. 4918；(1)は Banque Nationale du Cambodge, *Bulletin Mensuel*, Août 1964, (2)は Ministère de l'Agriculture, *Bulletin de la Statistique et des Etudes agricoles*, 1ère Année, No. 3 による。

このゴムを加えれば，さきの3品種と合わせて4品種が5カ年計画の目標額を達成したことになろう。

これに対して，他の品種，たとえば赤トウモロコシは17万トンで計画目標額20万トンの85%，ジュートは2300トンで目標額5000トンの46%，ヤシ糖は4万トンで目標額6万5000トンの61.5%，落花生は7000トンで目標額8000トンの87.5%，といった実績に止まったのである。綿花については，計画期間中の1960/61年度に5800トンと早くも目標額に近づき，翌1961/62年度には2万7500トンと目標額6000トンの4.58倍に達する成績をあげながら，翌1962/63年度には2700トンへと極端に低下し，計画最終年度たる1963/64年度には結局3500トンで目標額の58.3%に達したにすぎなかった。また，コーヒーの生産量については今次の発表数字には含まれてなく不明であるが，1962年度が16トンであった実情からみて，はたして計画目標額に達しているかどうか，はなはだ疑問に思われる。

ともかく以上のような簡単な検討の結果からみても，農産物10品種のうち計画目標生産額に到達した品種が4（コーヒーをこれに含ませるとすると5）であるのに対して，目標額に到達しえなかった品種がトウモロコシ，綿花などの重要農産物をふくむ6（あるいは5）品種もあったこと，またその成果が，あるものは680%，あるものは46%と各品種間で極端にアンバランスであることなどが知られた。第1次5カ年計画における農業生産面での成果は，かくして必ずしも良好であったとはいいがたいであろう。

このような結果を生んだ原因としては，洪水（1961/62年度）など自然的災害もさることながら，灌漑排水施設の不備，農業技術改良化の遅滞，流通機構の不整備などの諸点をあげることができよう。従来政府によって種々の施策が講じられてきたのではあるが，今後とも(1)灌漑排水事業の促進による旱ばつ・水害の防止，栽培面積の拡大，2毛作の導入など，(2)品種改良，輪作体系の研究による耕作法の改善から多角的経営の導入，(3)施肥，病虫害防止の管理，(4)農業の機械化促進，(5)新規開墾地の造成および入植農民への各種補助，(6)流通機構の整備，価格管理，などの諸点においていっそうの努力をなすことにより，一日も早く農業生産面での好成果をあげるよう期待したいところである。

あ と が き

改めていうまでもなく，農業はカンボジアの経済ないし国家財政を支える最も大きな柱である。その信憑性においては種々の問題が存在するであろうが，従来（1959年度まで）発表されている国民所得推計によれば，1959年に農業は国内国民総生産の41%を占めていたのである（第15表）。また人口比率でいえば全人口の76%が農業人口であることはすでに触れたとおりである。さらにこの国の輸出品は米，ゴム，トウモロコシを中心としてほとんど全部農産物によって占められている（第16表）。このように見てくると，工業化への種々の努力はなされてい

第15表　カンボジアの国内国民総生産

（単位：1956年不変価格による10億リエル）

	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1954年に対する1959年の増減率(%)	1959年の所得の構成比
農業	6.6	5.2	6.2	7.0	6.7	6.1	−8	41
鉱業・採石業	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	19	1
製造業(1)	0.7	0.8	1.1	1.2	1.2	1.2	63	8
建設	0.4	0.3	0.4	0.5	0.5	0.5	17	3
卸小売業	2.1	1.7	1.8	2.2	2.1	2.9	38	20
行政・国防	1.5	1.8	1.8	1.8	2.0	2.1	42	14
サービス	1.6	1.4	1.5	1.8	1.7	1.8	17	13
国内総生産(2)	13.0	11.5	12.8	14.5	14.3	14.7	13	100

（注）(1)電力を含む。
(2)諸項目に分散している運輸通信を含む。
（出所）ECAFE, *Economic Survey of Asia and Far East 1961*, 邦訳172ページ。

第16表　カンボジアの主要輸出品の数量と金額

（単位：トンおよび100万リエル）

品目	1960 数量	1960 金額	1961 数量	1961 金額	1962 数量	1962 金額
米	391,000	811	285,000	843	182,000	504
トウモロコシ	164,000	289	104,000	172	134,000	275
ゴム	40,000	978	36,000	714	36,000	714
コショウ	1,200	52	1,300	58	800	43
カポック(実つき)	5,100	41	6,400	34	7,600	36
タバコ	—	—	—	—	—	—
林産物	87,000	58	146,000	63	116,000	45
水産物	3,200	13	5,400	26	5,300	31
生畜	10,200	61	20,100	152	28,200	31
緑豆	47,000	124	5,900	23	9,100	36
ヤシ糖	1,100	9	1,000	9	1,100	9
大豆	7,400	16	71,000	16	3,500	8
ゴマ	3,200	10	6,000	10	7,800	21
落花生	200	4	500	4	300	2
	746,000	2,441	647,000	2,220	567,000	1,903

（出所）Ministère du Plan, *Annuaire Statistique du Cambodge 1962*, pp. 116～118より作成。

るものの，基本的には現在のカンボジア経済は依然としてフランス植民時代以来の輸出農産物のモノカルチュアであることが理解できよう。

したがって，一方でアメリカ援助を全面的に拒否(1963年11月以降）し，他方で貿易国営化（1964年3月1日以降）および銀行国営化（1964年7月1日以降）を断行するなどして流通機構を整備統轄し，もって自力による国家経済のいっそうの発展を企図している最近のカンボジアにとっては，その政策の財政的裏付けを期待しうる国内でほとんど唯一のものである農業生産の発展こそは，ますます緊急不可欠の重要事でなければならない。きたるべき第2次5カ年計画においては，とくにこうした観点からも，農業生産面での大幅な改善，伸長が切望されるわけである。

幸いにも現在のカンボジアには，近隣諸国すなわちラオスや南ベトナムにおけるような内戦や政情不安に悩まされることもなく，今後も従来どおり，独立，統一を維持しながら安定したシアヌーク (Sihanouk) 政権の下で，対内的には「王制社会主義」を，国際関係においては「中立主義」をその政策の軸としながら，平和な国家建設の歩みを続けていくことができるであろう。

そうした国家建設を効果的に促進するための基礎作業としては，何よりもまず正確な現状把握が前提とされるわけであろうが，本稿に紹介した今回の農業新統計は従来信頼性において種々問題のあったこの国の旧農業統計の根本的改訂であり，これによって従来よりはいっそう正確にこの国の農業の現実を把握することが可能になったものと考えられる。したがってわれわれは，今後この新統計を基礎として現実によく合致した農業政策の樹立およびその好成果の成就をカンボジアの政府，農民に期待することにしたい。

（海外派遣員　高橋　保）
―― 在プノンペン ――

シベリア経済開発の実態

―― アジア経済調査研究双書　第112集 ――

池　田　博　行　著

第1編　序　　論

第1章　開　発　前　史

第2章　地　誌　そ　の　他

第2編　開発政策

第1章　総　　括

第2章　工業の実態と開発計画

―― 燃料・エネルギー産業・非鉄金属工業・化学工業・林業，木材，製紙工業・銑鋼業・材械工業・建設材料工業・軽工業および食品工業・農業・運輸業 ――

第3章　地域別経済の実態と計画（東部シベリアおよび極東）

―― クラスノヤルスク地方・トゥワ自治共和国・イルクーツク州・ブリヤート自治共和国・チチンスク州・ヤクート自治共和国・極東地方 ――

第4章　東部地域のソ連邦における比重

第5章　開発と日ソ貿易

参　考　文　献